

# 報 道 資 料

発表日：平成27年8月21日

担当課：医療政策部地域医療連携課医療企画係

担当者：奥 山本

電話番号：0742-27-8645（内線3118）

Fax 番号：0742-22-2725

eメール：iryoudenkei@office.pref.nara.lg.jp

## 「糖尿病予防促進啓発フォーラム」の開催について

内容 テーマ「糖尿病腎症進行予防のために、今できること」

～ Stop Diabetes ★ Nara ～

糖尿病は、生活の中で知らないうちに進行し、放置しておく、様々な合併症を引き起こす生活習慣病のひとつです。そこで、広く県民及び医療関係者を対象として、糖尿病の予防や治療の促進をテーマとしたフォーラムを開催します。

講演1では、糖尿病を含めた生活習慣病予防の観点から健康ウォーキングの実践等を通じた健康意識の向上の取組について楽しくご紹介します。

また、講演2では、「平成26年度に実施した糖尿病患者の診療実態調査結果」（別添）を踏まえ、糖尿病腎症進行予防のために注意すべき点をご紹介し、パネルディスカッションでは、糖尿病専門医の先生方に、治療、予防、合併症の軽減などについてご説明していただき、日常生活の中で糖尿病とうまく付き合う方法について分かりやすくご紹介させていただきます。

<日時>平成27年10月8日（木） 13時30分～16時30分（受付開始は13時00分）

<参加募集期間> 平成27年10月1日（木）必着  
300人、葉書、FAX、e-mailでの事前申込みが必要

<場所> ならまちセンター 市民ホール（奈良市東寺林町38番地）

<プログラム>

【講演1】 「ウォーキングを通じた健康意識の改革」  
ウォーキングトレーナー デューク更家氏

【講演2】 「糖尿病腎症進行予防のために、今できること～実態調査の結果から～」  
奈良県立医科大学 糖尿病学講座 教授 石井 均氏

【パネルディスカッション】 「糖尿病といかに付き合うか」

コーディネーター 基調講演者	石井 均氏
パネリスト 前奈良県医師会理事	平盛裕子氏（医師）
市立奈良病院糖尿病内科部長	藪田又弘氏（医師）
奈良県総合医療センター循環器科医長、内科医長	丸山直樹氏（医師）
天理よろづ相談所糖尿病センター長	辻井 悟氏（医師）

<主催> 奈良県・公立大学法人奈良県立医科大学

## 別添 平成26年度に実施した糖尿病診療実態調査結果について

■調査対象数 38,862人

【県内糖尿病患者数 103,500人（推定）の37.5%のデータを収集】

■今回の調査で最も注目した県内糖尿病患者の「糖尿病腎症」進行状況について

※糖尿病腎症とは

糖尿病性網膜症、糖尿病性神経症とともに糖尿病の重大な3大合併症のうちの1つ。糖尿病腎症は糖尿病がはじまった頃から進行しますが、最初の頃は腎臓の症状はありません。しかし約10年程度経過した頃から持続性のタンパク尿が出現し、さらにタンパク尿が高度になるとネフローゼといって全身のむくみや高血圧が出現します。さらに経過すると腎臓の機能が低下し、透析療法が必要になる病気です。

■調査対象者の年齢と主要検査値

区分	年齢 (歳)	eGFR (ml/min)	HbA1c (%)	血清クレアチニン (mg/dL)	BUN (mg/dL)	尿中アルブミン定量 (mg/gCre)
平均値	67.7	63.8	6.7	1.1	19.0	144.0
中央値	70.0	64.4	6.5	0.8	16.0	16.0
対象者	全体	38,862	38,862	38,862	38,862	38,862
	有効数	38,794	35,674	38,016	35,730	34,647
	欠損値	68	3,188	846	3,132	4,215
		腎臓の働きを測定する値。腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示しており、この値が低いほど腎臓の働きが悪いことになる。	過去2、3ヶ月の血糖値の平均を表す値。HbA1cを測定することで糖尿病を診断したり最近の糖尿病治療を知ることができる。	腎機能を反映する検査指標。腎機能（腎臓の働き）が悪くなると値が上昇する。	主に腎機能の指標に用いられる。たんぱく質が分解されるときにできる老廃物で、大部分は尿中に排泄される。腎機能が低下すると、血液中の尿素窒素をうまく過・排泄できないため、この値が高くなる。	糖尿病腎症のもっとも早期に見られる検査所見の数値。腎症の早期治療のために欠かせない検査。



■調査対象者の糖尿病腎症の重症度分類について

eGFR区分	eGFR値	人数	内容
良い G 1	≥90	4,366人	腎機能が正常または高値と推定される
G 2	60~89	16,417人	腎機能が正常または軽度に低下していると推定される
G 3 a	45~59	7,252人	腎機能が軽度~中等度に低下していると推定される
G 3 b	30~44	4,543人	腎機能が中等度~高度に低下していると推定される
G 4	15~29	1,920人	腎機能が高度に低下していると推定され、 <u>透析導入リスクが高い。</u>
悪い G 5	<15	541~661人	末期腎不全と推定され、 <u>透析導入リスクが非常に高い。</u>
(透析療法中)		515~635人	透析療法中

調査人数が、糖尿病患者の37.5%であったため、実際に透析導入リスクが高い県内患者数は

透析導入リスクが非常に高い患者(G5) 1,500人超（推定）

透析導入リスクが高い患者(G4) 5,000人超（推定）

と考えられる。このような調査結果を踏まえて、フォーラムで糖尿病腎症進行予防等について啓発し、日常生活の中で糖尿病とうまくつきあう方法について紹介。